「およげない　りすさん」（第１学年）

主　　題：みんなともだち

内容項目：Ｂ－（９）友情，信頼

ね ら い：友達と仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。

**○基本発問　　◎ 中心発問　　□問い返し**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点・評価の場面 |
| 導入 | １　友達との関わりについて想起する。**○今までに自分が困っているときに助けてもらったことはありますか。**【予想される子どもの反応】・転んだときに保健室に連れて行ってもらった。・一人でいるときに遊びに誘ってもらった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 | **問題意識をもつきているか識をもつ**・事前アンケートの結果を活用して、自分の体験を想起させることで、本時の道徳的価値である「友情，信頼」について考えていこうとする意識をもたせる。・児童の体験を聞き、本時の学習のねらいとする道徳的価値への方向付けをする。 |
| 展開 | ２　資料を読んで、話し合う。**○「りすさんは、およげないから、だめ。」と言ったとき、みんなはどんな気持ちだったでしょう。**【泳げないことを理由にするみんなの気持ち】・りすさんは、泳げないから島に行けないよ。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・自分だけだって泳ぐの大変だから、連れていけないよ。【遊びたいというみんなの気持ち】・早く島に行って遊びたいのに、りすさんを連れて行ったら遅くなってしまう。【りすの気持ち】　・なんで連れて行ってくれないの。　・悲しいよ。　・みんなと遊びたいよ。**◎島で遊んでいるみんなは、どうして楽しくなかったのでしょう。****【予想される子どもの反応】**・りすさんのことが気になるから。・りすさんが悲しんでいるから。・りすさんがかわいそうだから。**□りすさんがいなくても、島に行けば楽しく遊べるんじゃないの？**・りすさんが、悲しんでいるから気になる。・りすさんも、仲よしだから一緒に遊びたい。**□りすさんじゃなくても、別の友達を誘えばいいんじゃない？**・いつも遊んでいるから、りすさんがいい。・りすさんが、連れて行ってと言ったのだからりすさんじゃないとだめ。**□りすさんは、泳げないけれど、どうしたらいいかな？**・みんなの背中に乗せてあげればいい。**□りすさんは、どんな気持ちだったのかな？**・かなしいな。・さびしいな。・みんなと島へ行きたいな。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**○かめさんがりすさんを背中に乗せて池を渡っているとき、みんなはどんな気持ちだったでしょう。**【みんなの気持ち】　・仲間はずれにしてごめんね。　・りすさんが喜んでくれてうれしい。　・一緒に遊ぶのが楽しみだ。・やっぱりみんな一緒がいいな。【りすさんの気持ち】・一緒に遊べてよかった。・仲間に入れてもらえてうれしい。３　友達との関わりについて、自分の生活を振り返る。**○みんなが仲よく過ごせるようにするためには、どうしたらいいですか。**【予想される子どもの反応】・みんなで一緒に遊ぶと楽しいから、一人でいる友達を遊びに誘いたい。・忘れ物をした友達に自分の物を貸したい。・友達が泣いているときに慰めたい。 | ・「泳げないから、だめ。」と言った、みんなの立場から、そのときの気持ちを考えさせる。・「泳げないから、だめ。」と言われた、りすの立場からも、その時の気持ちを考えさせる。・場面絵を活用し、仲間外れにしたみんなの行動や気持ちと独りぼっちのりすの気持ちを対比させながらとらえさせる。・みんなとりすの気持ちを比較できるように板書する。**多面的・多角的**・ワークシートに自分の考えを書かせ、グループの友達と考えを交流させることで、多様な考えに接し、考えを深められるようにする。・りすがいないために、みんなもつまらなくなってきていることに気付かせ、りすに対するみんなの気持ちが変わってきたことについて考えさせる。・思いやりの心や、仲よくできなかったことの後ろめたさなど、多様な価値を考えながら、仲よくしようとするよさに気付かせるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　●評価の場面動物たちが、りすを仲間外れにして遊んだときの思いを基にして、友達と仲よくすることのよさについて考えられるようにする。なぜ、動物たちはりすがいないと楽しくなかったのか、様々な考えや気持ちに触れ、動物たちと自分とを重ねることで、友達と仲よくすることのよさについて考えることができているか見取る。**多面的・多角的**・机間指導をしながら一人一人の子どもの考えを把握し、意図的指名を行い、多面的・多角的な考え方を共有できるようにする。**自分との関わり**・りすになったつもりで考えさせることで、自分との関わりでどのような気持ちになるか考えられるようにする。**自己の生き方**・りすとみんなで仲よく遊ぶことができたことについて考えさせ、自己の生き方について考えを深められるようにする。 |
| 終末 | ４　「ともだちはいいもんだ」を歌う。 | ・友達のよさに触れる歌を歌い、余韻を残して授業を終えるようにする。 |